



京都文教大学と城陽市市民活動支援センター、洛南タイムスの共同による「子ども記者クラブ」。今年度第2期は宇治が舞台。「編集会議」「取材」「記事執筆」の3日間開き、3班に分かれて活動しました。1回目は「宇治川の鶺鴒」を取材した班の記事を紹介します。

# 子ども記者クラブ

kyoto bunkyo university  
京都文教大学  
文部科学省  
地(知)の拠点  
城陽市市民活動支援センター  
(株)洛南タイムス社  
No.4

## 鶺鴒の魅力と鶺鴒匠の楽しさ

私たちが鶺鴒について調べようと思ったのは、もともと日本の文化や伝統に興味があったからです。みんな、宇治といえば古いお寺や神社が多いイメージがあり、昔の建物が多いと感じていました。だから、その中でも知っている人の少ない「鶺鴒」について調べようと思いました。聞いたことあるけど何をしているのか分からない人たちばかりでした。そこで、みなさんに知ってもらいたいと思い、調べました。そのため10月16日、観光協会に行き、鶺鴒匠の澤木万理子さんにインタビューしました。



宇治小5年  
草深由羽記者

### 昔からの伝統の漁業 鶺鴒とは？

「鶺鴒」とは、主にあゆをとる漁業だ。鶺鴒は夏以外やらない。なぜなら、「あゆの解禁」という、とってはいけない時期があるからだ。

方法はまず、鶺鴒の首に犬のリードのようなものをくくり、川に放つ。そして、鶺鴒さんがあやつる。すると、船に戻ってきた時、首に5〜6匹ためている。ひもをあまりき

つくとくくりすぎると、いけない。なぜなら少し弱くしておかないと小さい魚がのどを通らず、鶺鴒が魚をとるのをやめてしまうからだ。小屋には15

羽いるが、実際は1回で6羽しか使わない。鶺鴒さんも3人いて、1人は船頭をしている。

鶺鴒をあやつる時、「かがり火」というのをつけてする。すると、鶺鴒が水の中の魚を見やすいし、魚も火の近くに集まるという習性があるから魚が集まってくる。夜にするわけは、朝だと魚がすばしっこく、鶺鴒がつかまえてくれないからだ。

宇治の鶺鴒のいい所は、見る船とやる船が近いので、鶺鴒が魚をとる瞬間や、魚をまくところが見れることだ。

宇治以外にも、岐阜県の長良川や、京都の嵐山など、全国11カ所で行っている。私は澤木さんにインタビューして、澤木さんの鳥への愛情と情熱が伝わった。特に、ウッティや他のうみうみの仲がいいなど、思った。だから、本当に鳥が好きなんだと感じた。一度、澤木さんがうみうみを操っている所を見たい。

### 伝統のある鶺鴒匠と歴史のつながり

鶺鴒はおよそ千年前の平安時代にすでにやっている。鶺鴒は昔は漁業だった。全体の衣装は昔の漁師さんをイメージしている。

鶺鴒さんは三角帽子をかぶっているが、その名前は「風折烏帽子(かざおりえぼし)」という。つけている意味はかがり火が髪の毛について燃えないようにするため。腰につけているわらでできた衣装の名前は「腰蓑(こしみの)」という。つけている意味は雨がっぱの役割をすること。

当初は鶺鴒を見たことはあるけど、何をしているのかさっぱり分からなかった。子ども記者で調べて行くほど、分かってきたのでよかった。



宇治小5年  
川井梓記者



## 日本初 人工ふ化で鶺鴒が誕生！

鶺鴒の鶺鴒は普通人間が育てている所では卵を産まないう。しかし、卵を産んだ。しかし、卵を産んでもふ化するのにはわずかにいう。平成26年に初めて人工ふ化で生まれた。その後4



大久保小5年  
廣畑優香記者

の特ちょうは身体が小さめで、お腹あたりは白っぽい。性格はやんちゃで、甘えん坊。人が好きで、ひとなつっこく、川遊びも好きだ。私は取材をして、命をつないでいることが伝統をつなげるということにつながるんだととても感心した。



宇治小5年  
上仲ひなの記者

### 鶺鴒匠の気持ち

宇治には、現在3人の鶺鴒匠の内、2人の女性の鶺鴒匠が活躍している。宇治川では6羽の鶺鴒を操り、鶺鴒をしている。その6羽の鶺鴒は、野生の鶺鴒を飼いながら、鶺鴒ショーに出す鶺鴒に育てる。

鶺鴒匠になり15年目の澤木万理子さんに話を聞いたところ、毎日、鶺鴒の世話をすることや、鶺鴒を見に来たお客さんに喜んでもらえることがうれしいが、冬の寒い日に小屋のそらじや世話をしたり、鶺鴒が魚をとってこなかったりすることがつらい、と話していた。鶺鴒さんは、世話を毎日するのが大変そうだけど、鶺鴒を操るのがすごいと思った。

